

病院訪問学級との共同学習環境の構築
 - 交流学習，宿泊学習の取り組みを通して -

中学部 総合的な学習の時間
 沖縄県立森川養護学校
 理科：幸地英之 島袋康 石川達彦
 技術：宮里真栄
 kouchi@ryukyu.ne.jp
<http://www.ii-okinawa.ne.jp/people/moriyou/>
<http://www.morikawa-s.oki.ed.jp/>

キーワード 中学部，交流学習，グループウェア，個人情報

1. はじめに

森川養護学校には、沖縄病院に隣接した本校と、他に9つの病院内に訪問学級を設置されている。各訪問学級には担当職員が一人で数人の生徒の指導にあたっており、中学生の指導などには専門教科以外も担当しなくてはならないという問題がある。また、病気等の治療の合間に学習を続けていくために、体力的な問題や学習意欲を維持していくことが難しいという課題がある。

平成 11 年度には訪問学級にも病院側の配慮により教室でインターネットが利用できるようになり、興味のある Web ページをみたり、前籍校の友達との E-mail の利用も行われるようになり楽しんで教室に来るようになってきた。

これまで、E-mail のやりとりでは、1 対 1 (1 カ所対 1 カ所) という感じが強いのと、あとから参加する場合など話題の流れについていけないこともあった。これらを、話題ごとに会議室を設けたり、記録が残り後から参加しても流れがわかるようにグループウェアの利用を考えた。これにより、複数の生徒がグループで物事に取り組めるようにしたいと考えた。

また、個人情報の取り扱いについて、これまでも本人及び保護者の許諾を得て Web ページを作成してきたが、公開できない部分があり、外部との交流を図りたいが十分に情報を伝えることができないこともあった。グループウェアを利用することで、交流先の生徒、教諭にのみアカウントの発行を行い、限られた相手に必要な部分だけを見せることが可能となり交流会の当日だけでなく、前後の指導にも十分活用できると考えた。

2. 授業のねらい

本校及び、病院訪問学級の児童・生徒のみ入ることのできるグループウェアサーバーを使って、行事予定、係活動、自由掲示板などのコンテンツを、離れた場所にいる生徒たちが、役割を分担し作成していく。実際に会って一緒に行う行事をより有意義になるように計画を進める手だてとして活用する。

3. 実践の内容

(1) 指導計画 (12 時間)

時数	学習内容	生徒の活動
1	交流学習 (宿泊学習) の計画	行事の活動計画を立てる
5	各班ごとの取り組みを始める 掲示板を分けてそれぞれに仕事を進める	自己紹介を書き込み、役割分担 (生活班、学習班) を決めグループウェアを使ってお互いに連絡を取り合う。
2	スケジュールの確認	当日までの仕事の進行状況を確認し内容を調整する
	交流学習 (当日)	計画した役割をそれぞれが分担して行う。
2	交流学習の反省	ビデオや写真を見ながら、交流学習の反省を行い、掲示板に書き込みお互いに確認する
2	活動のまとめ	学習内容を個人情報などで問題にならないように配慮しながら Web ページを作成し公開する。

(2) グループウェアについて

本校および訪問学級の生徒、教師に対して個人のアカウントを発行し、基本的に次の3つの部屋 (会議室) を設置した。それぞれの部屋の中にテーマごとにさらに細かい部屋を設けた。

- みんなの部屋：生徒と教師ともに読み書きできる。 保健室，図書室などもこの中につくる。
- 生徒の部屋：生徒は読み書き，教師は読むだけにする。 交流学習，宿泊学習の係りの部屋をつくる。
- 先生の部屋：生徒には見えない，教師のみ読み書きできる。 打ち合わせ用の部屋をつくる。

E スクエア・プロジェクト成果発表会

グループウェアに訪問学級向けに自分の写真をデジカメで写してメッセージとともに掲載する。自分の分担したい仕事などもお互いに書き込んで、できるだけ毎日確認するようにした。

本校の生徒には学校から帰って病院内のパソコンからもアクセスできる仕組みにしたり、メッセージの書き方も簡潔に3行程度で書くように指導したことで「手紙」という意識ではなく「ことば」的な感覚で気軽にかけるようになった。図1がグループウェアを使っている様子、図2がその画面である。

(3) 交流学习、宿泊学習の取り組み

交流学习の中では、学習内容に「校内ウォークラリー」が取り入れられ本校の生徒たちが紹介する役割になった。事前に学校の様子を写真入りで掲示板に出しておくことも行った。図2は、病院から学校へ通学してくる渡り廊下をみんなに説明しているところである。

宿泊学習では、総務係にも生徒が参加し、式次第、部屋割表、開閉会式の司会などを分担して行った。交流が1日、宿泊が1泊2日であったが、事前のやりとりもあり早くからうち解けて交流ができた。

(4) 普通中学校との取り組み

中学校からの交流の依頼がタイミング良く入ってきたことから次年度以降の課題にしようと考えていたことが急遽行われることになった。相手側はインターネットを閲覧することは可能であったので教諭及び生徒用のアカウントを発行しグループウェア内に、特定の場所を設定しその中でのみ情報のやりとりができるように設定した。手紙、ビデオレター(図3)などをきっかけとして、その後のお互いの感想などをグループウェアでやりとりしている。伝達手段を適宜組み合わせで行っている。2月下旬に実際に交流会を開く予定である。

(交流時期の調整が難しく2月下旬の予定になった)

4. 情報を発信するに当たって

これまで、インターネットや外部からの取材の場合に生徒の写真や氏名の取り扱いについては本人及び保護者の許諾を得て行ってきた。今回もグループウェアを利用する意味はこの部分にもあるので資料を載せておきたい。

平成12年12月現在で確認をとった生徒数28名

写真の公開 不許可：13名，許可：15名

氏名の公開 不許可：11名，名のみ許可：2名，許可：15名

写真については、半数近くが公開を拒否しており、氏名についても同様に4割ほどが公開を拒否していることから、これらのことを十分に配慮した形で学校からの情報発信を行わなければならない状況がある。

Web ページや報告書等に掲載する場合には、許諾書を元に作成し、必要な場合には再度細かな確認を行うようにしている。

5. まとめ

これまで訪問学級の生徒たちに学校の雰囲気や伝えたり、各病院に数名づつしか在籍していないけれど交流学习や宿泊学習と一緒に活動する機会を設け友達をつくるなどの楽しみを持たせた教育を行ってきた。

前年度までは、教員側でほとんどのことを準備し、生徒は当日参加するだけというやりかたしかできなかったが、今年度は、グループウェアを利用し、事前にやりとりができるようになり掲示物や司会の分担など、数カ所の病院の生徒たちで検討することができた。これにより、当日初めて同じ場所に集まっても、違和感なくすんなりとけ込んでいける様子もみられた。

グループウェアを生徒が病院に帰ってからでも利用できる環境をつくることで、余暇の時間にも目的をもって取り組む雰囲気が出てきたり、これまで言葉でのコミュニケーションが苦手だった生徒も毎日メッセージを確認し、返事を書けるようになってきた。

病院での長期間の生活で介護を受ける側であるために、相手のことを考えて行動するという機会が少なくなりがちな生徒たちにとって今回の取り組みはお互いを意識しながら行動するという点でも効果があったと考えている。



図1 グループウェアの利用

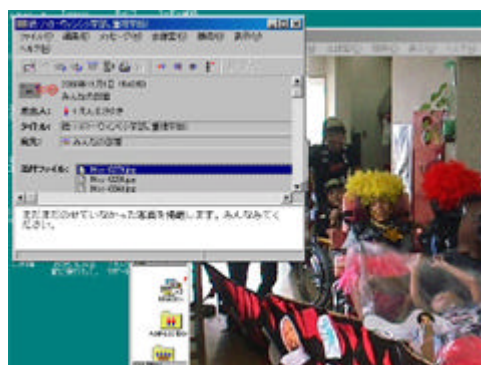


図2 グループウェアの画面



図3 交流用ビデオレターの作成